

福祉のひろば

特集

あきらめない！ 協働の力で 在宅の医療、介護に挑戦

早川一光・大井通正・藤原るか

9

2014

ひろばトーク

大阪市・城東区社会保険推進協議会会長

辻本 勝さん

みんなが仲よく、暮らしやすい地域をめざして



住む人・使う人が主人公！

私たちは住む人・使う人の
立場に立って設計しています。
お気軽にご相談下さい。

京都建築事務所

〒 604-8083

京都市中京区三条柳馬場東入中之町10

代表取締役社長 川下 晃正

TEL (075) 211-7277

FAX (075) 211-7270

http://www.kyoto-archi.co.jp/

〒601-8382

京都市南区吉祥院石原上川原町21
http://www.create-k.co.jp

クリエイツかもがわ



TEL 075 (661) 5741
FAX 075 (693) 6605
送料何冊でも240円

「てんかん」入門シリーズ

川崎 淳◆著

公益社団法人 日本てんかん協会◆編
読んで、見て、理解が深まる「てんかん入門書」

決定版。学校・職場・作業所での対応を加筆。



DVD 付き
発作の実際と介助の
方法をわかりやすく
リニューアル

1 てんかん発作 こうすればだいじょうぶ
発作と介助 改訂版出来!!

2000円＋税

皆川 公夫◆監修・執筆
公益社団法人 日本てんかん協会◆編
検査、治療、介助、生活での注意点など、こどものてんかん
について知っておきたいことをすっきり整理。

1300円＋税

2 すべてわかる！子どものてんかん

介護の基本

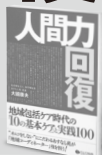
7刷
あすなら苑が挑戦する10の基本ケア
1800円＋税

介護とは人を「介し、尊厳を護る」こと。
最期まで在宅(地域)で暮らし続けられる仕組みを構築すること。
施設に来てもらったときだけ介護をすればいいという時代
はもう終わった！あすなら苑の掲げる「10の基本ケア」。その考
え方と実践例。これからの「地域包括ケア」時代における介護のあ
り方、考え方に迫る。

苑長 大國康夫◆著

2200円＋税

社会福祉法人協同福祉会・あすなら苑の本
人間力回復
地域包括ケア時代の「10の基本ケア」と実践100




津南町・栄村にまたがる 秘境の地 秋山郷 (鈴木牧之ほくしの秋山記行を訪ねて)

自然に恵まれた秘境「秋山郷」は、野反湖のそりから流れ出る魚野川うおのと雑魚川ざごの合流点・切明きりあけから穴藤群落けつちに至る三〇キロに及ぶ溪谷の総称です。上信越県境に位置するこの村々は、一二月頃から降り出し、三〜四メートルに達する豪雪に閉じ込められてしまいます。

三方を山に囲まれ交通の便が悪い秋山郷は、陸の孤島と化してしまいます。このことが、隔絶された文化や風俗、習慣などを多く残し、平家落人伝説や秋田マタギの話を通じて注目を集めています。

今回は、この秋山郷で生まれ、今も生活している山田庄平・みや夫妻を訪ねました。(栄村屋敷で秋山郷民俗資料館を一九七三年より夫婦で開設されました)

A black and white photograph of an elderly man with short, white hair and glasses. He is wearing a light-colored, buttoned vest over a dark sweater. He is looking slightly to the right of the frame with a thoughtful expression. The background shows a kitchen with cabinets and a window.

八六歳になられた山田庄平さん。「いまじゃ、米をつくるより買
う方が安い。米をつくると赤字になってしまふ。本当にひどい状
況だ。若い人たちの仕事もなくなり、ここでは暮らしていけない。
母親は、一〇八歳で亡くなった。自分たちは、粟あわや稗ひえ、高粱こうりゃんなど
を食べて若いときは過ごしてきた。今では、健康食のように言わ
れる。稲作もやってきたが、斜面の中での稲作や農業はたいへん
だった」。



「田んぼがあったときは、トンボが空の色が変わるぐらい飛んでいた。田んぼがなくなつてからは、トンボもさまざまなき物も減つた。猿やクマや、以前はいなかったイノシシなどが畑を荒らしてしまう。冬場はたいへんだ。年取つてからの生活は、とくにきつい。雪のないときは週一回医者がまちから来るが、冬場は、雪でたいへん。孤立してしまう」。

暮らし続けること、生き続けることと、二〜三日過ごすこととは、まったく違います。山田さん夫妻は、秋山郷での暮らしや生活を知ってほしいと、一九七三年七月に自宅に手を入れて民俗資料館を開設されました。農機具や狩猟道具をはじめ、生活用品も展示され、こられる方々に語りはじめました。

十返舎一九の依頼もあり、一八二九年に秋山に足を踏み入れ、記録を残した鈴木牧之。一八三二年に秋山記行の実録編と戯曲編を刊行します。実録編の記録が、非常に詳細に記録され、紀行文として、また伝承記録としても貴重な資料として評価され、伝えられています。今回の取材は、この鈴木牧之の秋山記行が大きな参考になっています。

(写真・文 下野祇園)



【ひろばトーク】

みんなが仲よく、暮らしやすい地域をめざして 辻本 勝 6

福祉のひろば

2014年9月号

●特集● 鼎談 あきらめない！ 協働の力で在宅の医療、介護に挑戦

“家”を通して一人ひとりの生き様に向き合い、支える	大井通正	10
暮らしを感じとり、つかんでいくホームヘルプ	藤原るか	14
鼎談	早川一光・大井通正・藤原るか	17

●トピックス●

私は歩きたい	千田 絹枝	26
栄村の地域特性と高齢者福祉の状況	林 宏二	28
病院は住むところではありません！	西村 憲次	32
誰もがありのままの姿で 生きていけたら		36
第8回 学んで元気！京都社会福祉講座の受付をはじめました！		39
おたがいに認めあい、ひとりひとりが原動力になる！	大野 歌織	40
不安のない老後を自分らしく生きぬいて	北添 眞和	44
第26回総合社会福祉研究所総会議案のポイント	黒田 孝彦	48

●連載●

フォーラム

「医療・介護総合法」の成立と、これからのたたかい	福井 典子	54
あれから3年……釜石・東日本大震災を記録する会代表		
六、車6台乗り継ぎ、要求書提出	前川 慧一	56
相談室の窓から D男さんの思いを探って（その2）	青木 道忠	58
わらじ医者 早川一光の「よろず診療所日誌」	早川 一光	60
育つ風景 思いきり遊ぶ	清水 玲子	62
いっばいっばいの挑戦（18） 扶養照会の罨！	繁澤 多美	64
映画案内 『舟を編む』	吉村 英夫	66
現代の貧困を訪ねて 扶養義務って何だろう	生田 武志	68
なにわ銭湯見聞録（拾七）	ラッキー植松	70
いただきます！	三島の郷	72

DHA、EPAで脳も身体も若々しく！いわしのごぼ天

私の研究ノート

コ・プロダクションと医療生活協同組合	小田巻 友子	74
ホームレスから日本を見れば	ありむら潜	76
花咲け！男やもめ	川口モトコ	77

●表紙の絵●
神門やす子



●カット●
川本 浩

みんなのポスト 52 / 今月の本棚 51 / 福祉の動き 78

●グラビア● 津南町・栄村にまたがる秘境の地 秋山郷

みんなが仲よく、暮らしやすい地域をめざして

大阪府・城東区社会保障推進協議会会長 ^{つじもと}辻本 ^{まさる}勝さん

一九八七年から六年間、城東区歯科医師会の会長を務めました。そのころは、寝たきり高齢者の方々が歯科の治療を受けられないことが問題になっており、保健婦さんたちと話し合いの場をもって対応をしていました。いまは、在宅訪問診療にとりくむ歯科も増えました。

実は、歯科医院の経営は、とてもきびしくなっています。一九七三年ごろ、歯科医不足が社会問題となり、私が学生のころは全国で八校だった歯科医師養成大学が三〇校近くに増やされ、歯科医の数は一・五倍以上に増えました。ところが、歴代政府は診療報酬を適正に引き上げることをせず、歯科診療費の総額はほとんど変わらないままです。また、歯の治療が必要なのに、経済的理由から受診しなかったり、中断してしまう人が増えています。こうした状況のなかで、若者が歯科医をめざすことに不安を感じ、私立歯科大の約六割が定員割れを起こしています。

私が城東区社会保障推進協議会（以下、城東社保協）に関わるようになったのは、所属する大阪府歯科保険医協会が大阪社会保障推進協議会の幹事団体であったことがご縁です。二〇一二年から、会長を務めています。

城東社保協ではいま、バスの問題にとりくんでいます。大阪市では、七〇歳以上の市民が地下鉄とバスを無料で利用できる敬老優待乗車証（敬老バス）がありました。しかし今年八月、市の財政難を理由に、登録料年間三〇〇〇円、一回乗車するたびに五〇円という有料制度になりました。しかも、赤バス（大阪市のコミュニティバス）は昨年度末



つじもと まさる

1941年生まれ。1965年に大阪歯科大学を卒業し、1年間他院に勤めた後、1968年に父が開業していた辻本歯科を継ぐ。1987年より6年間、城東区歯科医師会会長。1995年より、歯科保険医協会副理事長。2012年より活動が再開された城東区社会保険推進協議会会長に就任、現在に至る。息子3人も歯科医として、それぞれ独立している。

に廃止され、一般の路線バスの運行数も極端に減らされ、市民の足が奪われています。これに対し他区では、独自にコミュニティバスを運行しているところもありますが、城東区は週三回のみ運行という不十分なものであったうえ、昨年単年度で終わってしまいました。城東区区政会議に公募委員として参加した城東社保協のメンバーがこの問題について意見を述べたところ、他の委員から「赤バスがあれば、高齢者や障害者が地域の行事に参加しやすくなる」と賛同する意見も出されたそうです。お年寄りの出歩く機会が減ると、足腰が弱り、病気になるようになります。人とのつきあいも減ってしまいます。関西国際空港まで行く時間を五分縮めるために、地下鉄工事に二五〇〇億円をつぎこむより、敬老バスを無料に戻し、バスの本数を増やしてくれたほうが、よっぽど住民のためになります。

私は、みんなが仲良く、暮らしやすい城東区をめざしていこう！と言っています。これを実現するためにどうするか。国や自治体、大企業は、福祉に金を使いたくありません。そのため、働く人の四割を非正規雇用に置きかえることで溜めこんだ、二七〇兆円といわれる内部留保を吐き出して、企業の社会的責任を果たしてもらえるように、みんなが要求しないとしかたがないですね。いま言われているような「残業代ゼロ」という方向ではなく、正規雇用の人数を増やすよう、国が仕向けていかないとはいけません。

特集

あきらめない！ 協働の力で

在宅の医療、介護に挑戦

〳〵家族介護から社会的介護〳〵 〳〵地域密着型生活介護〳〵 施設から在宅へ〳〵等々と制度政策の転換〳〵ことに、国は、耳触りの良い言葉をならべ、公的福祉を住民から遠ざけ、福祉の市場化を持ち込みました。在宅生活を過〳〵すうえで、医療と介護の連携や協働は欠かせません。しかし、その医療も、国は、抜本的な受け皿づくりを放置したまま、施設から在宅を押し進めています。

在宅の医療や介護の現場では、制度の変貌の影響を受けながらも、利用者や家族の在宅生活を機械的に制度に切り換えるわけにはいきません。かかわる従事者のみなさん自身も、利用者や家族の人権、尊厳を保障する存在として、諦めないで、制度からの排除や抑制へのくやしい思いを胸に秘めながら、立ち向かっています。

さて、地域のなかで確かに単身世帯が増えています。だからといって、夫や妻と一緒に生活していた場が、施設になったわけではありません。家があり、家族がある、あった。その中での生活の場なのですから。在宅での医療や介護は、利用者と同時に、家や家族も対象です。その対象は、協働という存在だという視点も欠かせません。さまざまな問題を背負いながらもです。

そして、在宅医療や介護にかかわる従事者は、この思いをつらぬきながら、従事者自身が協働することの大切さ